

28 10例以上適用したクリニカルパス(クリティカルパス)の数

▶ 項目の解説

クリニカルパス(クリティカルパスとも呼ばれる)は、医療を揺らぎなく適切に進めるために、重要な診療の道標です。大学病院における高度な医療では、全ての疾患にパスが適用されるものではありませんが、定型的な診療の部分については、パスを設定することは可能であり、パスの適用により患者と診療プロセスを共有し、職種間の診療の見通しを改善し、医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与します。

▶ 定義

10例以上適用したクリニカルパス(クリティカルパス)の数。

「10例以上」とはバリエーションによるドロップアウトを含み、当該年度内に適用された患者数とします。パスの数は一入院全体だけではなく、周術期等の一部分に適用するパスでも1件とします。

算式

実数

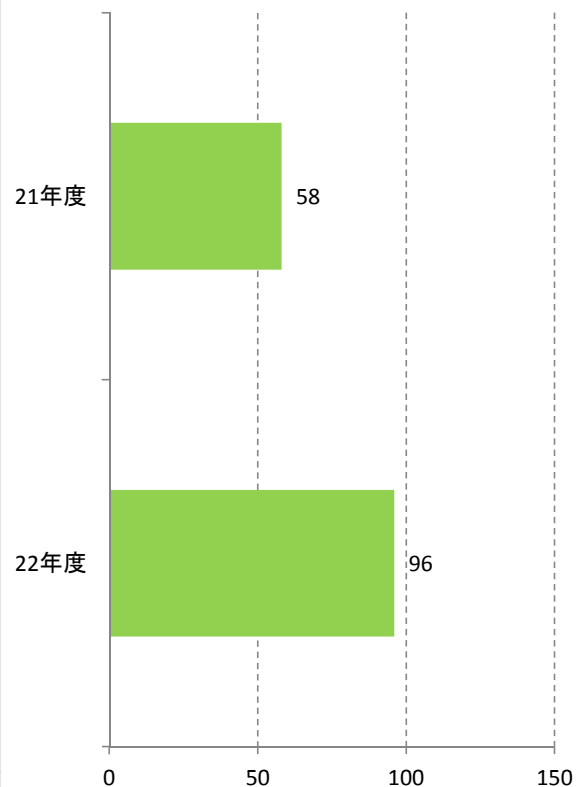
単位

本

期間

年間

10例以上適用したクリニカルパス
(クリティカルパス)の数



29 在院日数の指標

▶ 項目の解説

DPCごとの在院日数を視点とし、病院全体として効率よく診療(診断群分類点数表の入院期間Ⅱより短い)していることを評価します。いわば「効率性の指標」ということができます。そもそも平均在院日数は患者の構成により数値が異なるために、患者構成を加味しない単なる平均在院日数は意味がありませんでした。DPCにより、最も医療資源を投入した傷病名と、行った治療行為に患者分類が行われ、それぞれのDPCごとの全国平均の在院日数も公表されました。このデータと、自院のDPCごとの在院日数により、同じDPCでも在院日数が全国よりも長いのか短いのか判断できます。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すものですが、数値は1.0が全国平均の在院日数であり、大きい方が全体として在院日数は短く、効率よく診療していることを示します。

▶ 定義

厚生労働省のDPC評価分科会の公開データ。

算式

指数

期間

6か月

在院日数の指標
(DPC評価分科会公開データ)

